

2020. 3. 28

畑 啓之

世界の企業に吹き荒れ始めた大暴風雨 「日本でいちばん大切にしたい会社」は生き残る

新型コロナウイルス (COVID-19) の厄災は世界全体を包み込み、その勢いは衰えるところを知らない。世界を含め、多くの企業がその操業を停止し、また物流や商業でもその影響が大きくなり始めている。

世界の企業の多くがその資産価値を減ずることは必至で、さらには多くの企業が倒産に至ることも想定される。そうなると、失業率も著しく高くなり、大きな社会変動の原因となる。

すでに、格付け会社による企業格付けの引き下げが行われ始めている。3月期決算の結果を受けて、4~6月には非常に多くの企業において、格付けが引き下げられることは必至である。

MDY、日本電産の格付け見通しを「ネガティブ」に変更 JIJ.com 3/27(金)

<https://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20200327-00000066-jjc-biz>

ムーディーズ・ジャパン (MDY) は 27 日、日本電産 <6594> の発行体格付け「A3」を確認し、格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」へ変更したと発表した。

#### 【関連記事】

MDY、日本電産の格付け見通しを「ネガティブ」に変更 「A3」格付けを確認

MDY、東京ガスの格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更

MDY、JFEの格付け見通しを「ネガティブ」に変更 「Ba2」格付けを確認

MDY、住友電工の見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更 格付けは「A1」

MDY、住友化の格付け見通しを「安定的」から「ネガティブ」に変更

私は、もう 10 年も前に、書籍「日本でいちばん大切にしたい会社 坂本光司 (2008 年)」を読んだ。それぞれに特徴を持った会社である。この書は 1 巻から 7 巻まで発行されているが、1 巻の内容は次の通りである。

紀伊国屋書店の Web サイトより

目次

第 1 部 会社は誰のために？ (「わかっていない」経営者が増えている！；会社経営とは「五

人に対する使命と責任」を果たすための活動；業績ではなく継続する会社をめざして；業績や成長は継続するための手段にすぎない；社員は利益だけを求めているわけではない；「多くの人を満足させる」こと。それが会社の使命；経営がうまくいかない理由は内側にある；中小企業にしかできないことがある；日本で大切にしたい会社を増やそう；続けていくことの大切さ)

第2部 日本でいちばん大切にしたい会社たち（障害者の方々がほめられ、役立ち、必要とされる場をつくりたい—日本理化学工業株式会社；「社員の幸せのための経営」「戦わない経営」を貫き、四八年間増収増益—伊那食品工業株式会社；「人を支える」会社には、日本中から社員が集まり、世界中からお客様が訪ねてくる—中村ブレイス株式会社；地域に生き、人と人、心と心を結ぶ経営を貫いていく—株式会社柳月；「あなたのお客でほんとうによかった」と言われる、光り輝く果物店—杉山フルーツ)

今回の荒波を乗り越えて、存続を続け(ゴーイング・コンサーン)ていただきたい会社群である。

本書の「はじめに」にもあるように、「景気や政策が悪い」との「言い訳」をしないことが、「大切にされる会社」の条件の一つです。今まさに、大暴風が吹き荒れ、その勢いをさらに増そうとしています。

本書に登場する中村ブレイス株式会社 (<http://www.nakamura-brace.co.jp/>) は、本書中では「医療機器は人の生命にかかわりますから、責任も重く、しかも発注者一人ひとりの症状、使い方が違うため受注生産になりがちでやりにくいのです。百に一つの不良品があってもいけません」と記されています。日本に、そして世界に、なくてはならない必要とされている会社です。

「言い訳をしない」これらの会社はきっと生き残っていけるものと信じています。

はじめに

私のモットーは、「現場で中小企業研究や、がんばる中小企業の支援をする」ことです。毎週、1-2日は大学の研究室を飛び出し、さまざまな企業を訪問調査してきました。その結果、これまでにうかがった企業は、北は北海道から南は沖縄県まで、優に六〇〇社を超えています。

こうした企業の大半は、私の親しい研究仲間や中小企業経営者からの情報提供やインターネット上の発掘、さらには各種の新聞や雑誌等から発見したものです。

とりわけ、私が意識して訪問させていただいている企業は、長期にわたり好業績を維持している企業(社員と顧客の満足度が高い証明といえます)や、業績はともかく、真に世のため人のためになる経営に懸念を取り組んでいる価値ある企業です。

こうした企業の現場を訪問し、その経営者と話をしていると、真に正しい経営が実践されていることをいつも実感させられます。

そればかりか、「この社長は、ここまで社員やその家族のこと、顧客や下請企業のこと、地域社会のことを心して経営をしてくれているのか……」という感動に襲われることがあります。メモを取る大学ノートも、あふれる涙で濡らしてしまったことも少なからずありました。

こうした企業の存在は、「問題は内ではなく外」と嘆き悲しむ、被害者意識に陥り固まった他力本願タイプの中小企業の「五つの言い訳」を、ことごとく否定してくれます。

「五つの言い訳」とは、「景気や政策が悪い」「業種・業態が悪い」「規模が小さい」「ロケーションが悪い」「大企業・大型店が悪い」です。そしてこの五つの言い訳をする経営者は必ず、「そこにわが社の業績が上がらない最大原因がある。変わるべき・変えるべきなのは外部環境である」と言います。

そうした経営者は、いつの時代にも、これら五つの言い訳が口ぐせになっています。

そしてこれらの経営者のもう一つの特徴は、何よりも重視し、その実現を追求しなげればならない社員やその家族、下請企業や顧客等の幸福に対する思いが総じて弱い・低いということです。

これが私の、偽らざる実感です。